

2013 年世界大会分科会紹介

2013 年 7 月 10 日

フォーラム「核兵器全面禁止のために一政府と NGO の対話」

2015 年 NPT 再検討会議で核兵器禁止・廃絶へ具体的なステップを踏み出すため、国際政治の場で何が求められているのか。核兵器廃絶のために国際政治の第一線で活躍している、核兵器の非人道性の流れを後押しする諸国や新アジェンダ連合、非同盟諸国運動などの政府の代表が、その方向性を示します。同じ目標に向けて、全国の草の根と世界の反核運動の代表が、議論し交流します。

分科会1「2015 年に向けて一核兵器全面禁止の行動を」

2015 年 NPT 再検討会議にむけ、「核兵器全面禁止」の大波をどのように起こしていくのかを最大の狙いとして開催します。核兵器の非人道性を大きく取り上げながら、「核兵器全面禁止のアピール」署名の推進、平和行進、原爆展の開催はじめとした草の根行動について、海外代表を交えて交流・討論します。広がる草の根パワーの各地の経験に学びます。

分科会 2「非核平和のアジアを」

東アジアの非核化実現へ、核兵器全面禁止の立場で行動することの重要性に押さえながら、アジアで起きている軍事的緊張状態、紛争の平和的解決へ向けて、アジアと日本の反核平和運動が何をすべきか議論し、経験を交流します。特に、被爆国であり、アメリカのアジア基軸戦略に追従する日本の役割について深めます。

分科会 3「非核平和の日本を」

次回 2015 年 NPT 再検討会議を前に、いま、世界のすべての国の政府と市民社会には、この目標を現実に変えるために協力し、行動することが強く求められています。4 月に国連欧州本部で開催された第 2 回準備委員会（ジュネーブ）において、80 カ国が連名で発表した、核兵器廃絶を訴える「核兵器の人的影響に関する共同声明」に対し、日本政府は署名を拒否。この態度の根本にあるアメリカの「核の傘」に依存する態度を改め、被爆国にふさわしく「核兵器のない世界」へイニシアチブをとる日本をどうつくるのかを交流します。

分科会4「非核平和の自治体づくり」

1789 自治体の内、非核平和宣言自治体数は 1565、平和市長会議に加盟する自治体も 1302 をこえ、原水協が提唱した「核兵器全面禁止のアピール」署名に首長や議会議長の署名した自治体も 1038 になるなど核兵器廃絶と平和を願う自治体が増えています。原爆写真展の開催や公共施設での署名、広島・長崎への青少年派遣など、自治体が住民とともにすすめる非核・平和行政の推進と日本政府に核兵器全面禁止のための決断と行動を求める自治体の役割などを自治体関係者とともに交流します。

分科会 5 「9 条輝く日本を一原水爆禁止運動の役割」

いま世界は、紛争の平和的解決と核兵器のない世界にむかって努力しています。そうした中、ヒロシマとナガサキの痛苦の経験から生まれた憲法 9 条をもつ日本の果たすべき役割が問われています。北朝鮮や中国などの脅威論を名目に、9 条「改正」や集団的自衛権容認が狙われているいま、これを止め、9 条を生かした日本を実現するために、原水爆禁止運動が何をすべきか、議論します。

分科会 6 「被ばく体験の継承と実相普及」

広島・長崎の原爆投下から 68 年。被爆者の語る「再び、ヒロシマ・ナガサキを繰り返すな」の願いと行動が、核兵器廃絶の運動の大きな力となってきました。国際的に生まれている、新たな動き「核兵器使用の非人道性」に注目しながら、被ばく体験を聞き学びつつ、核兵器廃絶の緊急性を認識しあい、被ばく体験をもつ国内外のみなさんが一堂に会し、体験の継承と実相普及について考えます。

分科会 7 「被爆者援護・連帯の活動」

日本原水協の基本目標のひとつである、被爆者援護・連帯の活動交流の場。広島・長崎の被爆の実相に学びながら、今後の被爆者援護・連帯の活動について考えます。東京・愛知・大阪・広島などで行われる「ノーモア・ヒバクシャ訴訟」、2 世・3 世の活動交流、被爆者をサポートするネットワークづくりのことなどについて交流します。

分科会 8 「核兵器と原発」

東京電力福島第一原発の実態は「収束」どころか大量に発生し続ける高濃度汚染水などまさに事故真ただ中です。にもかかわらず安倍政権は原発再稼働や輸出など原発推進政策をすすめています。背景には「抑止力として核兵器がいつでも作れる」ことがあります。原水爆禁止運動と脱原発の運動の共同の理由を深めつつ、被災地支援、除染、各地でおこなわれている放射能測定など放射能被害をどう防ぎ根絶していくかのとりくみを交流します。

分科会 9 「核兵器廃絶とくらし」

「強い日本」を掲げる安倍政権。金融緩和や財政出動で景気回復への期待を国民へ抱かせる一方で、日米同盟の強化を掲げて防衛費を増額し、アメリカの戦略に追随する姿勢を見せています。「核兵器のない平和で公正な世界」を掲げてきた世界大会の分科会として、経済問題と核兵器廃絶など平和の課題とのつながりを学び、取り組みを交流します。

分科会 10 「反核平和と文化」

核兵器廃絶の取り組みの中での文化の役割を深め、交流します。

分科会 11「青年のひろばー学習・交流」

被爆者の方から直接対話形式で、被爆体験、その後の生き様、思いを受け継ぎ、「なぜ、今、核兵器をなくすのか」その原点を学び、交流します。

分科会 12「映像のひろば」

核兵器のない平和で公正な世界を実現するために、映像文化が大きな役割を担っています。2012年に「もうひとつのアメリカ史」（10回シリーズ）を製作したオリバー・ストーン監督と、歴史学者のピーター・カズニックさんに、アメリカの原爆投下の犯罪性について語っていただきます。また、映像に記録された被爆者運動や原水爆禁止運動の映像活用の経験交流やノウハウを学びます。

分科会 13<動く分科会>佐世保基地調査行動

日米軍事一体化のもとで一層強化される佐世保基地を調査します。

分科会 14<動く分科会>被爆遺構・碑めぐり

被爆体験を聞き、ガイドとともに被爆遺構をめぐることによって被爆地ナガサキの心に触れます。

分科会 15<動く分科会>

全国から集まる少年少女が、被爆地ナガサキでスイトンを食べながら、被爆体験を聞き、つどいます。

■<高校生参加企画>世界のヒバクシャと語ろう

全国の高校生が、長崎の街に集って、被爆の実相と「核兵器による平和維持という幻想」を学びあい、交流を深めます。